

超 大運動会

2015年9月4日(金)東京武道館(東京都足立区綾瀬)にて『超・大運動会』が行われました。



- 「玉送ったで賞」**
 前田 隆行(株式会社ニッコーポレーション)
 浪江 美里(株式会社セレスポ)
- 「玉入れたで賞」**
 高村 勇介(株式会社乃村工藝社)
 盛田 穂歌(株式会社乃村工藝社)
- 「引っ張ったで賞」**
 岩崎 良平(株式会社セレスポ)
 佐藤 亜季(株式会社セレスポ)
- 「知ってるで賞」**
 松浦 蔵人(飯田電機工業株式会社)
 中村 郁美(株式会社ユニティー)
- 「走ったで賞」**
 太田 辰志(株式会社ヒラツカ・リリース)
 山下 由華(株式会社トーガン)
- 「大会MVP」**
 大桃 加衣(株式会社乃村工藝社)

当日は、41社、267名と多くの参加があり、各社、新人・若手を中心に集められていてこのイベントに対する本気度がパチパチと伝わってきました。(間違っって日本武道館に向かった方もいたとか・・・)

チーム編成ですが、組合員同士の交流活性化を目的として、ランダムに青、赤、黄、緑の4チームに振り分け、チームを構成しています。

また、競技も「大玉送り」「玉入れさせない」「綱引き」「業界〇×クイズ」「チーム対抗リレー」とバリエーションのある種目が用意され、どの年代でも参加でき、楽しめるラインナップになっています。

13:00開会。まず初めに、榎本交流委員長による開会宣言、続いて吉田理事長による開会挨拶、各チーム団長による選手宣誓、ラジオ体操と続きました。恒例の演目で、青春時代を思い起こさせます。久々のラジオ体操だったと思いますが、意外と皆さん覚えていたもので、あの恒例の音楽が流れる

と自然と体が動いていました。

次に競技開始と思いきや、なんと、2015年全米チアダンス選手権第3位の玉川大学ジュリアスによる、世界トップレベルの息の揃った見事な応援演武が繰り広げられました。

圧巻の演技を見せてもらった参加者のテンションも上がり、心も体も温まったところで競技スタートです。

「大玉送り」
 1.5mほどもある大きなバルーンを、頭上を手で後ろへ送っていく競技です。全員参加型で、チームの団結力がモノを言います。

まず1回目は感覚をつかむための練習。バルーンの感触、後ろへ送るときに力加減を確かめます。

さて、本番です。皆コツをつかみ、どのチームも一歩も譲らない中、僅差で青チームが1着でゴール！青チームが1位で、口火を切りました。

「玉入れさせない」
 第2種目は通常の玉入れとはひと味違い、各チームの団長が他チームの玉入れを邪魔するという競技。

玉を正確にカゴに狙うという技術力と、敵チーム団長のお邪魔攻撃がぶつかり合います。

玉が入れば入るほど、団長がそれを邪魔すればするほど競技が白熱していきます。3回戦行う中、青チームが2回もトップの座を奪います。

青チームが優勝候補に名乗り出ました。

「綱引き」
 『男子限定』、『女子限定』、『男女混合』、計3種の競技を行いました。

筋力・体力を競う競技ですね。全員がタイミングを合わせて綱を力いっぱい引き、お互いのチームの団結力を競い合います。

競技が進むにつれ筋力が落ちていきます

が、そこは気力と団結力でカバー。

力を出し切った選手たちは、精根尽きた様子で、翌日以降の筋肉痛に悩まされたことでしょう。男子限定、男女混合共に緑チームが制しました。

「業界〇×クイズ」
 クイズを〇×で当てるといった単純かつ明快な頭脳競技。途中、あっち向いてホイでどっちが勝つか予想するといったギャンブル的な問題もありましたが、この競技は赤チームが制しました。

「チーム対抗リレー」
 やはり運動会の大トリは、リレーですね。各チーム20名が選ばれ、合計80名の選手が全員全力疾走、スタンドからの大きな声援も加わり、一番の盛り上がりでした。中盤まで最下位であった黄色チームが、なんと後半から猛追し、他チームのバトンミスも幸いし、見事1位を取りました。

目まぐるしく順位が変わるレース、見る側も飽きない展開で、フィナーレにふさわしい内容となりました。

ここで競技終了。全く1位がどこになるのか分からない展開で、結果発表は2次会の懇親会に送られました。参加者の皆さんお疲れ様でした。

ここで、参加者からのコメントをいくつか紹介したいと思います。

『普段の交流会と違い、スポーツを通す事で肩の力を抜いた自然な交流ができて良かったです。同じチーム同士で得点を得た時には、他社の方々とも自然とハイタッチなどをして盛り上がっていました。また次回も参加したいと思いました。』

『もう少し競技種目が多ければ良かったと思います。チームの団結心が芽生えて、盛り上がり来たと思った頃にリレーで競技終了だったので…。朝から夕方まで開催してみんなでお昼を食べるのも楽しいと思いま

した。』との来年に期待する声も、...

私自身も参加者として、会社の垣根を超え、一つの目標に向かって、業界の皆さんが協力し、本気で参加している光景を目の当たりにし、業界の熱意・勢いを感じることが出来ました。日々、メールや電話でコミュニケーションをすることが多い昨今ですが、顔と顔を突き合わせることで生まれるこの一体感は、いつの時代も必要不可欠だと感じました。

いくつもの歓喜や笑顔が生まれ、本当に素晴らしい1日だったと思います。

我々は、ディスプレイという形で環境や場を作り上げる仕事ではありますが、その最終目的は、こういった素晴らしい体験価値の為なのでは？と改めて考えさせてくれる機会ともなりました。

また次回開催を期待しています。

広報委員：松本和徳/榎博展